

# パネルディスカッション

11:30-12:00

2014年12月26日

大学教育カンファレンス in 徳島

ワークショップ(反転授業をやってみた)

# 教材を作る負担は？ 負担をかけただけの効果は？

- ビデオ3本、1本20分程度、実習なので操作を撮影して編集してコンテンツ化。実際に作るビデオの10倍ぐらいの時間がかかった。ただし次回も使えるのでよい。次も使えるので報われる(芥川)
- 昨年度のビデオを使ったので、ほとんど負担はない。どこを使うか確認する手間が少しあるぐらい。教員自身にはかかっていないが、TAの負担はある。TAあってこそ。自分の授業を撮影するのに抵抗がなければおすすめ。対話型の講義の部分はそのままつかえないので編集が必要。昨年より解答率が上がった。(森賀)
- 編集ができることを知らず、撮影に10倍ぐらいの時間がかかった。パワーポイントにキーワードを載せて解説。スマホを使うことを認めているので授業中に見ている学生がいる。知らない学生に教えている様子もある。PCやスマホを授業中に有効に使う方法を教える必要があるのでは？ 今後は役に立つやり方だと思う(山本)
- 従来の授業と同じぐらいの手間。反転授業だから負担が大きいということはない。Webにアップするのは一瞬。Webに資料を載せるといつでも学生は見える。LMSの問題作成もおもったより大変ではなかった。コストに見合う効果があったと思う。(西川)

# 事前のコンテンツを見てきたかどうかをどう評価しているか？

## 見てこない学生にはどう対応したか？

- i-Collaboに小テストを付けたので、それで事前学習をしたかどうかは確認。当日の朝までに6割がやっている。授業直前に小テストをやっている人も含めれば100%。授業はいきなり実験が始まるので、やってこないと学生自身が困る。(芥川)
- LMSに確認問題を載せている。授業の最初に小テストを実施。2重チェック。平均すると8割～8割5分ぐらいの学生が見ている。事前学習をやってこないと演習に進めないようになっている。学生にも周知している。やってきた学生の満足度を考えれば、やってこない学生には厳しめにする。実際は注意を促すぐらいだが。(森賀)
- 小テスト、小レポート課題を実施している。シラバスには小テストを実施することを書いていないので評価対象外。対面は欠席してレポートを提出する学生がいる。小テストやレポートはやらずに出席する学生もいる。その対応はむずかしい。(山本)
- アクセスログで判定している。(西川)
- TBLでは1週間前に資料を渡して、授業の時間内に個人テストとグループテストを課している。グループテストのあとに相互評価をしている。ほぼ全員資料は見ているようだ。(田島)
- 23チーム中、2チームぐらいは見えていない(金西)

# 授業全体の効果をどう評価するか？ その中で反転授業の効果をどう測定するか？

- 同じ内容で複数年実施しているのであれば、年度ごとに比較するのがいいのでは？ 授業内容を少し変えると難しいが。同じ授業内で、反転と反転以外の授業を実施するグループを作るのはどうかと思う（芥川）
- 満足度を評価する（アンケート）。しんどいか？ おもしろいか？ スマホで手軽に見れることは学生に受け入れられているようだ。それがどう効果に結びついているかはこれから。中間試験の結果はそれほど差がない。しばらく続けてみて今までとどう違うか検討したい。（森賀）
- 心理学ではABデザインというやり方がある。アンケートを事前と事後に実施すると、ある程度効果が見えるのでは？（山本）
- 去年は15回の半分をTBL、半分を旧来型で実施し、それぞれのアンケートと成績評価をアウトカムとした。今年の反転授業と、去年の旧来型授業を比較すると効果が出ていそう。これから検証（西川）
- 学習態度（受動的→能動的の変化）のアンケートを実施中（金西）

# 追加質問

- コンテンツはすべてオリジナルでないダメか？（著作権）
  - 日本では、引用の範囲内であればよい。引用の範囲かどうかの線引きは裁判事例がないのでわからない。（金西）
- 授業だけで見てと言っても、学生がオープンにしてしまう。ブログ、youtubeにアップしてしまう
  - 学内限定ストリーミングサーバであってもツールがあるので、学生がダウンロードできる。悪気はなくとも、やる学生はいるので、注意を促すしかないかと思う（金西）

- 反転授業(ビデオ)は手軽だが、深く考える学生がいなくなるのでは？ 極端な話、放送大学を事前に見てくる指示。
  - ビデオだけ、演習だけではプラスにはならない。事前にビデオを見て、しっかり演習する構成にする。本来の教科書などの、補足としてのビデオでは？ (芥川)
  - 予習してこいと言ってもやっこない学生がいる。とりあえず、ビデオを見て小テストをやってきてという。予習のきっかけとして使う。すべての授業を反転にすべきというわけではないが、多様なスタイルがあるといいのでは？ 反転はツールの一つ。(森賀)
  - 心理学専攻の学生にとっては専門だが、そうでない学生にとっては教養なので、手軽な感じでもよいのではないか。小テストをしても教科書を読まずに単語を拾ってくる学生もいる。何年か後に役に立つならいいかと思っている。
  - インプットで事前学習の資料の作りこみが大事。そして、アウトプットとしてのアクティブラーニングの授業も大事では。
  - 授業の体制を週2~3回(クォーター制)などにすれば、1、2回を予習・復習授業にあてられる。反転授業と同じことだろう。(古屋)